

乾燥牧草の輸入動向と植物検疫

わが国は、家畜の濃厚飼料原料としてトウモロコシ、モロコシ、ムギ類などを外国から大量に輸入しているが、粗飼料については国内で生産される飼料作物や稲わらなどで自給していた。

しかし、近郊酪農家周辺の急速な都市化や労働力不足のため、粗飼料の生産量が低下してきている。このような状況の中で、最近の円高によって、比較的安価に乾燥牧草が輸入できるようになっている。特に米国の西海岸を中心に良質の乾燥牧草が安定生産されており、乾燥牧草の輸入依存率が年々高まってきている。

輸入動向 乾燥牧草の輸入数量の推移は、棒グラフのとおりで、1979年は約8万トンであったが、10年後の

1989年には10倍の79万トンに達し、1991年は過去最高の123万トンと大幅に増加している。

1991年の生産国別輸入割合は円グラフのとおりである。これによると、主な輸入先は米国、豪州、中国、インドネシア、タイ、カナダの6か国で、特に米国からの輸入量が80%近くを占めている。

わが国に輸入されている乾燥牧草の種類は、米国からのスーダングラス、アルファルファ、チモシー、ライグラス類、バミューダグラス、フェスク類、豪州からのオート、スーダングラス、カナダからのチモシー、アルファルファ、中国からのヨウソウ（羊草）、コソウ（湖草）、インドネシア

及びタイからのサトウキビの茎葉などである。

これらの乾燥牧草は強く圧縮されて40～50kgの束になっており、ほとんどが海上コンテナで輸入されているが、中国からは本船積貨物として輸入されている。

植物検疫の現状 わが国は、ムギ類の大害虫であるヘシアンバエを輸入禁止対象害虫に指定して

り、北アメリカ、ヨーロッパ、ニュージーランド、旧ソ連などの発生国からは、本虫の寄主植物であるオオムギ属、コムギ属、ライムギ属及びカモジグサ属植物の茎葉の輸入を禁止している。

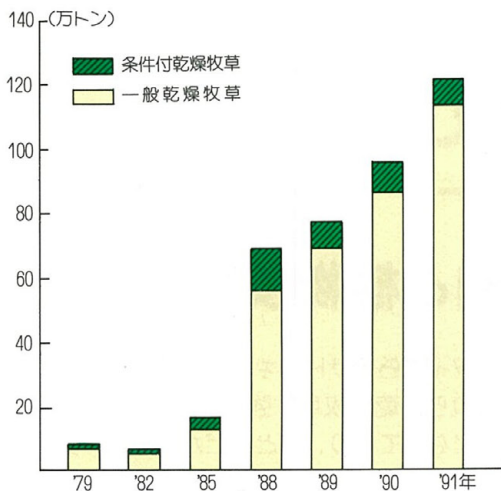
米国産乾燥牧草の輸入は昭和50年代前半から始ったが、牧草の中に輸入禁止品であるム



米国カリフォルニア州での牧草栽培風景

ギ類やカモジグサ属植物の茎葉が混入し、返送になる事例が多発した。このため、米国はヘシアンバエを完全殺虫する消毒技術の開発に着手し、燐化水素を使用してヘシアンバエを完全殺虫する消毒技術を確立した。これを受けて日本は、1979年6月から燐化水素によるくん蒸を条件に米国産乾燥牧草に混入しているむぎわら及びカモジグサ属植物の輸入解禁措置を講じた。

この制度により米国から輸入されている条件付き乾燥牧草の輸入数量は初年には約1.5万トンであったが、近年は8～9万トン前後で推移している。また、条件付き乾燥牧草の種類はチモシーが



乾燥牧草の輸入量の推移

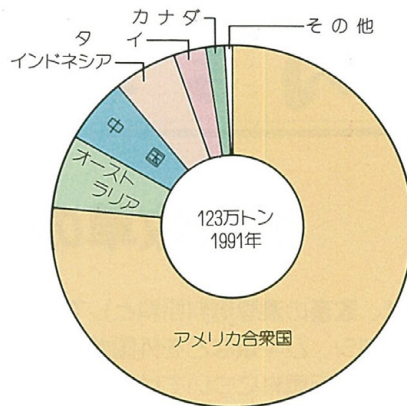
単位: 10,000トン

年	一般	条件付き	合計
1979	62,673	15,222	77,895
1982	44,156	18,335	62,491
1985	129,084	36,246	165,330
1988	567,300	137,544	704,844
1989	702,851	84,103	786,954
1990	874,942	93,437	968,379
1991	1,151,355	79,110	1,230,465

90%を占めており、その他にアルファルファ、オーチャードグラスがある。

乾燥牧草の輸入検査で発見される害虫は、メイガ類、カメムシ類、ヒメマキムシ類、コキノコムシ類、シバンムシ類、ヒラタムシ類、ゴミムシダマシ類などで、そのほとんどが貯穀害虫である。

1991年における害虫付着による不合格数量は4.3万トンで、輸入数量の3.5%である。このように不合格率が低いのは、輸入関係者が自主的に燻



1991年 乾燥牧草生産国別輸入実績

単位: 10,000トン

国名	輸入数量
アメリカ	949,205
オーストラリア	79,191
中国	77,073
インドネシア	62,853
タイ	34,192
カナダ	25,633
その他	2,318
合計	1,230,465

化水素でくん蒸を実施してきているためである。しかし、中国から輸入されるヨウソウとコソウでは40%以上が不合格になり、くん蒸処理、廃棄又は返送措置がとられている。

諸外国からの乾燥牧草の輸入量は、今後ますます増加することが予想されており、植物防疫所では海外からの病虫害の侵入を防ぐため、輸入検査に当たっては慎重かつ精密な検査を実施するとともに、検査技術の向上に努めている。



乾燥牧草の集荷風景



コンテナヤードでの検査風景